

素盞雄神社の節分祭が盛大に執り行われ、大勢の氏子さんたちと近づく春を感じました。松尾芭蕉は素盞雄神社に参拝し千住大橋で黒羽藩との別れを惜しみながら旅に出ました。

コツ通りの道路整備も終わり、神社までの道には桃の木が植えられ育っています。もうすぐ境内の桃の木も美しい花を咲かせてくれます。花見大会を開催したいと考えております。

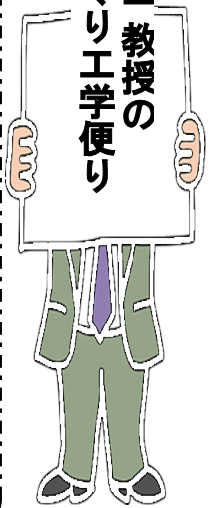
スー。パーやコンビニの便利さにやられて地域の商店街が減少し、どこも寂しい町並みになりました。コツ通りも同様ですが、先日九日に延命寺で開催された遊び大会では大勢の人々が参加され大変な賑わいでした。大人も子どもも楽しめる企画で楽しかったです。また、このような賑わいをみせることを考えていきたいと思っています。

私事ですが、二月初旬に自宅内ですべて転んでしまい、左足大腿骨を骨折しました。救急搬送され、足立区の病院に入院となりました。今は治療とリハビリを頑張つて咲き乱れる桃の花を待っています。

コツ通り 杉山六郎

☆六郎が語る☆
南千住一口話
第221回

吉田喜一教授の
ものづくり工学便り



荒川区における鉛筆生産

都立産技高専名誉教授 吉田喜一
荒川区は自転車、皮革製品、石鹼、家具、煉瓦等とともに鉛筆産業が盛んでした。私は1948年(昭和23年)1月、日暮里生まれの団塊世代です。当時高校進学率は60%程度で、中学卒業後同級生は、鉛筆を含めた区内工場に多く就職しました。

鉛筆の国産化は明治20年頃といわれ、当時は輸入品が70%を占めていました。児童対象のビッグマーケットにノートと鉛筆を普及させるためには、安い国産品の必要がありました。その頃三河島駅に木材が集積されていたところから、鉛筆製造業者が続々と荒川区に集まり、「鉛筆は東京の地場産業」として協力し合い、いいものを作ろうと大きく発展していき

ました。
1951年(昭和26年)頃、全国の鉛筆生産の大部分が荒川区に集中しました。小規模の業者が多く、全工程を一貫して行うことのできる業者が、極めて少ない業界であることによります。



消費生活
アドバイザー
佐藤祐一郎

「就職氷河期世代」の一人として

こんにちは、メガネのサトウ4代目です。少し前のことですが、1月30日(木)の東京新聞朝刊「ミラー」欄に、私の投稿が採用されました。今回の投稿は、区内のJR日暮里駅で起きた目の不自由な方の転落事故を巡っての提言です(只今、当店ホームページに紙面の画像を掲載しておりますので、よろしければご覧下さい)。事故防止には電車の徐行ではなく、旅客案内をする駅員増で対処すべきという趣旨ですが、文末にかけては、話題になることが多い「就職氷河期世代の問題」に対する私の思いを記したつもりです。

最近、宝塚市役所や、厚生労働省で氷河期世代限定の中途採用を行うなど、これまでにない新しい動きが出てきました。蓋を開けてみれば数名の採用枠に対して数百倍の希望者が殺到と、まさに「焼け石に水」の状況を浮き彫りにしました。同じ世代の一人である私も、政府や社会の対応がもう少し早ければ良かったなと思うのと同時に、この世代が安定した生活基盤を築ける社会の実現が、医療費(健康保険)・年金など増え続ける社会保障費の問題や、格差社会、内需の縮小、中高年のひきこもり、孤独死、老老介護など、あふれる諸問題の解決には不可欠だと思っています。形だけの施策ではなく、真に実効性を伴った取り組みが行われることを願っています。



■メガネのサトウ ■ <https://megane-sato.com>
南千住5の43の13【東京新聞並び】
TEL 03(3806)4930

★休業日のご案内★

2月・3月...火曜定休です。

★営業時間のご案内★

平日(月・金) : AM 9時 ~ PM 6時30分

土休日 : AM 10時 ~ PM 5時